



志望校の過去問から入試本番に 向けての勉強につなげよう！



11月13日。宇都宮短期大学附属高校のキャンパスで、高校2年生を対象にS I Y授業が行われました。これまでのS I Y授業を通して、得られた学習方法やモチベーションを受験勉強にどうつなげていくかがテーマとなります。

入試の傾向を知り、
それに沿って効率的に学ぶことが大切

「この中で志望校の過去問を見たことがある人はいますか」

まず、永田講師から生徒へのこの問いかけで授業がスタート。見たことがあると手を挙げた生徒は全体の3割ほどでした。前回までのS I Y授業から学び、この夏に受験勉強をスター

トした生徒は多かったようですが、受験本番を意識しての勉強はまだ始めていない様子。

永田講師はそんな生徒たちの顔を見ながら、こう切り出しました。

「今回のS I Y授業のテーマは、〔志望校過去問分析〕です。入試本番にどのような問題が出るか、難易度や配点など過去問から情報を集めることはとても重要です。対策を立てることができれば受験を有利に戦えます」。

永田講師によると、東大生も過去問をしっかりと分析し、教科ごとにしっかりと対策を決めて受験勉強に臨んでいたとのこと。まず志望校の過去問を知り、それに沿って学習計画をつくり学ぶことが大切なのだといいます。

ここで、永田講師から分かりやすい例えが挙げられます。「過去問を見たことのないままの勉強は終わりの見えないマラソンと同じです。ゴールがわからないからペース配分でどのように走ればよいかわからなくて苦しいですね？」この一言に生徒たちは深くうなずき納得した様子でした。

「では、実際に志望校の過去問を調べて入試の情報を集めてみましょう！」

さっそく志望校の赤本で問題を解き始めたり、配点等を調べたりする生徒たち。周囲と話し合いながら、より多くの入試情報を集めていきます。2年生には過去問を解くことはやや難しいところもありましたが、怯まずに取り組む姿がとても頼もしく見えました。



ひとつおりの過去問を調べ終わった頃、永田講師が「みなさん、過去問を解いてみたり、調べたりしてみてどうでしたか？ 感想を教えてください」。と、生徒に質問します。

多くの生徒から「問題が難しかった」「配点など知らない情報が多かった」などの声が挙がりました。

そんな生徒たちに、「今回の授業の目的は、問題に正解することではありません。入試本番に向けてどう勉強していけばよいか自分の勉強を見つけるためのものなのです。今日から入試本番に向けての勉強のやり方としっかりと向き合っていけば大丈夫です！」と語り掛ける永田講師。

志望校の入試情報を集めることができた後は、実際に自分のこれからの学習計画を改めて考えていくワークが始まります。「合格最低点を超えるためには得意・不得意も考慮して、どの教科でどのくらい点数を取ればよいか決めてみましょう。目標が決まればやるべきことが見えてくるはずです」

生徒たちは集めた情報から入試本番を見据えて一生懸命にワークに取り組んでいきます。頑張っている生徒たちに「知識不足が多いところがポイントだね。そこをどう対処していくかをしっかり考えるといいよ」など、丁寧にアドバイスをしていく永田講師、縹講師。最後に「がんばれ」と、優しく背中を押す言葉をかけてもらい、生徒たちもやる気に溢れているようでした。その様子を見て永田講師、縹講師もとても嬉しそうな表情を浮かべていました。



【永田講師からのコメント】

今日の講義もお疲れ様でした！今回は各々でワークを進めてもらう時間が長かったので、なかなか大変だったかもしれません。しかし、この経験は今後受験勉強をしていく上でとても重要になるので、ぜひ活かすようにしてください。講義の途中でも言いましたが、受験が近づけば近づくほど、計画を立てたり、戦略を整理したりする時間はなくなってきます。直前になって何をすれば良いか混乱しないようにするために、今のうちに受験までの筋道を立てておきましょう！

【縹講師からのコメント】

意外と入試の配点ってややこしいです。自分が行きたい学部学科のことはちゃんと調べて、その上で受ける志望校を決めないといけないのです。だからこそ、「単に勉強を頑張る」だけでなく戦略をきちんと考えることも重要だと思いませんか？

今回は僕の東大理系数学の戦略をご紹介します。参考になれば幸いです。東大に受かるためのアプローチにはこんなものもあり得る訳です。皆さんも後 15 ヶ月で自分なりのベストバランスを考えてみてくださいね。



Study It Yourself

やらされる勉強から「やりたい勉強」へ
行ける大学ではなく「行きたい大学」へ